

【第26回3級（管理業務）学科試験】

（はじめに）

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2016年9月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

解答は、選択枝ア～ウの中から1つ選びなさい。

問1

ア～ウを比較して、特許出願の願書に添付する書類として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 図面の簡単な説明
- イ 出願審査請求書
- ウ 要約書

問2

ア～ウを比較して、著作権が侵害された場合にその権利者がとり得る措置として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 審査請求
- イ 差止請求
- ウ 異議の申立て

問3

ア～ウを比較して、商標権の存続期間の更新登録の申請に関する次の文章の空欄  に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

商標権の存続期間の更新登録の申請ができる期間は、商標権の存続期間の満了前  から満了の日までである。

- ア 3年
- イ 1カ月
- ウ 6カ月

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問4

ア～ウを比較して、特許法における実施権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 通常実施権は、登録しなければ効力が発生しない。
- イ 専用実施権は、当事者間の合意によって効力が発生する。
- ウ 契約によらずに効力が発生する実施権がある。

問5

ア～ウを比較して、商標登録に対する不使用取消審判に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標権者が、審判の請求の登録前の3年以内に登録商標に類似する商標のみを指定商品に使用している場合、取消しの対象となり得る。
- イ 登録商標を外国においてのみ継続して指定商品に使用している場合、取消しの対象となり得る。
- ウ 商標権者が登録商標の使用をしていない場合、専用使用権者が登録商標を指定商品に使用していても、取消しの対象となり得る。

問6

ア～ウを比較して、譲渡の対象となる権利として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 同一性保持権
- イ 公衆送信権
- ウ 意匠登録を受ける権利

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問7

ア～ウを比較して、特許法に規定する先願主義に関する次の文章の空欄  に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

先願主義とは、同一の発明について異なった日に二以上の特許出願があったときに、最先の特許出願人のみが発明について特許を受けることができることをいう。但し、同日に同じ発明について二以上の特許出願があったときは、  のみが発明について特許を受けることができる。

- ア 特許庁長官が行う「くじ」により選ばれた一の特許出願人
- イ 特許出願人の協議で定められた一の特許出願人
- ウ 時間的（時刻までを考慮して）に最先の特許出願人

問8

ア～ウを比較して、商標登録を受けられる商標に関して、最も 不適切 と考えられるものはどれか。

- ア 商品の品質を記述的に表しただけで識別力を有しないとされる商標であっても、一定の条件のもとに商標登録を受けることができる場合がある。
- イ 先に出願された自己の登録商標と類似する商標について、商標登録を受けることができない。
- ウ 他人の著名な芸名を含む商標は、その他人の承諾を得れば、商標登録を受けることができる。

問9

ア～ウを比較して、著作隣接権に関して、最も 不適切 と考えられるものはどれか。

- ア 固定した音が著作物でない場合であっても、著作隣接権が発生することがある。
- イ 私的使用目的の場合には、著作権と同様に著作隣接権も制限される。
- ウ 著作者が、その著作物を演じても著作隣接権を有することはない。

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問10

ア～ウを比較して、特許を受けるための要件に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 日本国及び外国で新規性及び進歩性を有する発明であること
- イ 当該技術分野の最先端の知識を有する者が容易に創作できる発明でないこと
- ウ 公序良俗に反する発明や公衆衛生を害するおそれがある発明でないこと

問11

ア～ウを比較して、著作権の存続期間に関する次の文章の空欄  ～  に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

共同著作物の著作権は、  死亡した著作者の死後、  を経過するまで存続する。

- ア  =最終に  =70年
- イ  =最終に  =50年
- ウ  =最初に  =50年

問12

ア～ウを比較して、特許出願の出願審査請求に関する次の文章の空欄  ～  に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

特許出願があったときは、  ，その出願の日から3年以内に、  にその特許出願について出願審査の請求をすることができる。

- ア  =何人も  =特許庁長官
- イ  =利害関係者は  =特許庁審査官
- ウ  =特許出願人は  =特許庁審査官

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問13

ア～ウを比較して、知的財産の利用に関して独占禁止法に抵触する可能性が低い行為として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア ライセンス技術を用いた製品に関し、当該製品を輸出し得る地域を制限する行為
- イ ライセンス技術を用いた製品に関し、当該製品の販売価格又は再販売価格を制限する行為
- ウ ライセンス技術を用いた製品に関し、競争する技術を用いた製品の研究開発を禁止する行為

問14

ア～ウを比較して、著作権者の許諾を得なければ行うことができない行為として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 美術の著作物の原作品を譲り受けた者がその原作品を個人の部屋で展示すること
- イ 未公表の著作物を、公正な慣行に合致し、かつ引用の目的上正当な範囲内で引用すること
- ウ 営利を目的とせず、聴衆から料金を受けず、かつ実演家に対し報酬が支払われない場合に、公表された音楽の著作物を公に演奏すること

問15

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）に規定される制度として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際調査制度
- イ 国際予備審査制度
- ウ 国際審査請求制度

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問16

ア～ウを比較して、意匠登録の要件に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠登録出願後から意匠登録前までの間に日本国内において公然知られた形状等に基づいて当業者が容易に創作することができた意匠については、意匠登録を受けることができない。
- イ 意匠登録を受ける権利を有する者の行為に起因して意匠公報に掲載された意匠については、新規性を喪失しなかったものとみなされる。
- ウ 意匠登録出願前に外国において公然知られた意匠に類似する意匠については、新規性を有しないことを理由として意匠登録を受けることができない。

問17

ア～ウを比較して、商標権等に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 不使用取消審判により商標権が消滅した場合、その商標権は同審判の請求の登録の日に消滅したものとみなされる。
- イ 登録商標が著名な場合、その商標権に係る指定商品と非類似の商品についても、その商標権の効力が及ぶ。
- ウ 他人の商標登録に係る商標登録出願の出願日前から自社の商標を使用しているも、先使用権が認められない場合がある。

問18

ア～ウを比較して、著作隣接権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 実演家の著作隣接権は、その実演を録音・録画した時に発生する。
- イ 著作隣接権は、著作物を広く社会に広める際に一定の関与をしている者に認められる権利である。
- ウ 実演家以外には著作権法上の人格権が認められていない。

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問19

ア～ウを比較して、弁理士法における弁理士が他人の求めに応じ報酬を得て行うことができる独占業務とされているものとして、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許原簿への登録申請手続
- イ 特許出願の手続
- ウ 特許料の納付手続

問20

ア～ウを比較して、著作権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権者から音楽の著作物の複製物を貸与された者は、その著作権者の許諾なく、その音楽の著作物の複製物を有償で公衆に貸与することができる。
- イ 著作権者から言語の著作物の複製物を購入した者は、その著作権者の許諾なく、その言語の著作物を有償で公衆に口述することができる。
- ウ 著作権者から絵画の原作品を購入した者は、その著作権者の許諾なく、その絵画の原作品を有償で第三者に譲渡することができる。

問21

ア～ウを比較して、工業所有権の保護に関するパリ条約に規定される三大原則として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 各国特許の独立
- イ 属地主義
- ウ 優先権制度

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問22

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作物とは、思想又は感情を創作的に表現したものであって、高度のものをいう。
- イ 著作物とは、思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸、学芸、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。
- ウ 著作物とは、思想の創作のうち高度のものであって、文芸、学芸、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

問23

ア～ウを比較して、育成者権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 育成者権者から登録品種の種苗を譲り受けた後に、さらにその譲渡された種苗を第三者に譲渡する行為は、育成者権を侵害することになる。
- イ 育成者権者は、登録品種の名称を業として独占的に利用する権利を専有する。
- ウ 育成者権者の許諾を得ることなく登録品種の種苗を生産する行為は、育成者権を侵害する可能性がある。

問24

ア～ウを比較して、意匠法に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 物品とは市場で流通する動産であるが、独立して取引の対象とはならず市場で流通していない物品の部分も意匠登録により保護を受けることができる。
- イ 意匠登録出願について審査を受けるためには、意匠登録出願の日から3年以内に出願審査請求をしなければならない。
- ウ 意匠登録を受けるためには、意匠が新規性を有する必要がある、その判断基準時は意匠の創作時である。



【第26回3級（管理業務）学科試験】

問25

ア～ウを比較して、商標登録に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標掲載公報発行の日から6カ月以内であれば、その商標登録が商標法第3条（商標登録の要件）の規定に違反してされたことを理由として登録異議の申立てをすることができる。
- イ 音商標、位置商標、動き商標について、商標登録を受けることができない。
- ウ 他人の商標権が不使用取消審判により消滅した場合は、同一の商標についてすぐに商標登録を受けることができる場合がある。

問26

ア～ウを比較して、特許権の設定登録、存続期間に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許権は、原則として設定登録の日から20年間存続する。
- イ 特許権の設定登録を受けるためには、第1年から第3年までの特許料の納付が必要である。
- ウ 特許権の存続期間は、延長される場合がある。

問27

ア～ウを比較して、著作権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作物の創作と同時に著作権が自動的に発生する。
- イ 複製権者又は公衆送信権者は、出版権を設定することができる。
- ウ 著作者人格権と一緒にあれば、第三者に著作（財産）権を譲渡することができる。

【第26回3級（管理業務）学科試験】

問28

ア～ウを比較して、不正競争防止法に規定される営業秘密に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 技術上の情報に関する秘密であっても、営業秘密として保護される。
- イ 秘密として管理されていないけれども、公然と知られていなければ営業秘密として保護される。
- ウ 産業の発達に寄与できる情報のみが営業秘密として保護される。

問29

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）に規定される国際公開に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 優先日から1年6カ月経過後に国際公開が行われる。
- イ すべての国際出願について国際公開が行われる。
- ウ 国際調査機関が国際公開を行う。

問30

ア～ウを比較して、著作権法上、著作隣接権を有する者として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 映画製作者
- イ 有線放送事業者
- ウ レコード製作者

**【3級学科】**

番号	正解
問1	ウ
問2	イ
問3	ウ
問4	ウ
問5	ウ
問6	ア
問7	イ
問8	イ
問9	ウ
問10	イ
問11	イ
問12	ア
問13	ア
問14	イ
問15	ウ
問16	ウ
問17	イ
問18	ア
問19	イ
問20	ウ
問21	イ
問22	イ
問23	ウ
問24	ア
問25	ウ
問26	ア
問27	ウ
問28	ア
問29	ウ
問30	ア